

ミスベリング南アルプス懇談会

開催報告

1. ミスベリング南アルプス懇談会とは
2. 取り組みの視点の追加
3. 追加検討テーマとその検討方法
 - 3.1 当面の取り組みの視点(今年度)
 - 3.2 長期的取り組みの視点(今年度) H27水防法改正のポイント
 - 3.3 検討方法
4. 富士川水系ミスベリング研究会の概要と提案イメージ
5. 「霞堤の保全」の取り組みスケジュール(案)

平成27年10月

1. ミスベリング南アルプス懇談会とは

<位置づけ・目的>

・「南アルプス市霞堤を活かした防災まちづくりに向けた検討会」提言内容に地域活性化の視点を追加し、霞堤の歴史的価値や減災機能について再認識し、保全・有効活用の地元メリットについてアイデアの具体化を検討する。

<内容>

日時:平成27年10月2日(金) 9:30~12:00

場所:南アルプス市役所本庁 東別館3階 大会議室

1.開会

司会

南アルプス市 都市計画課

開会の挨拶

南アルプス市 建設部部长

2.基調講演

・堤の原風景

南アルプス市 教育委員会 文化財課
田中副主幹

3.懇談会内容

(1)南アルプス市における霞堤を活かした防災まちづくりの

取り組み視点について、甲府河川国道事務所 調査第一課

(2)富士川水系ミスベリングプロジェクトの紹介、

甲府河川国道事務所 調査第一課

(3)地球いきいきプロジェクトの紹介、

(株)JTB関東 久保田氏

4.閉会

甲府河川国道事務所 調査第一課

<懇談会 出席団体>

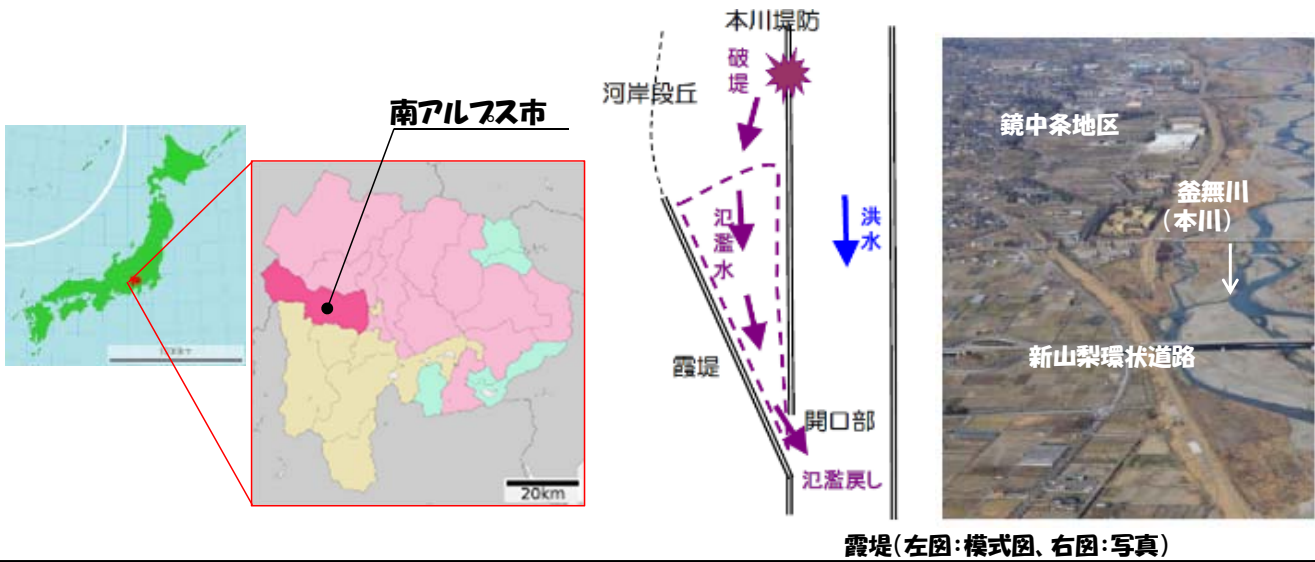
- ・山梨県 治水課
- ・南アルプス市
都市計画課
農業振興課
文化財課
観光商工課
- ・(株)JTB関東 営業推進部
地域交流グローバル事業チーム
- ・甲府河川国道事務所 調査第一課



「南アルプス市霞堤を活かした防災まちづくり」に向けた検討会の概要

・南アルプス市において、地域を水害から守る霞堤の機能を保全し、その霞堤を地域で有効活用するための方策を提案することを目的としています。

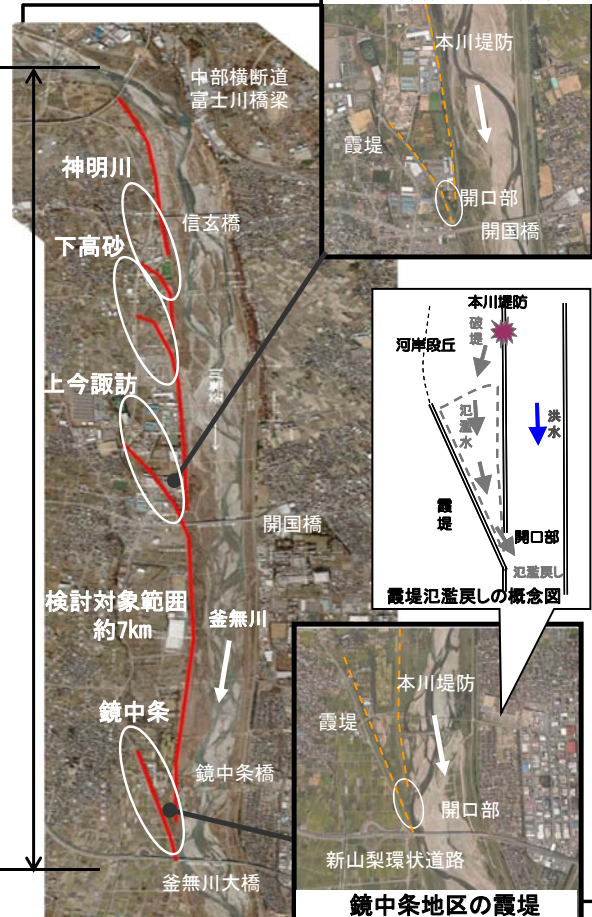
・構成メンバーは、南アルプス市を事務局として、山梨大学、山梨県、国土交通省(河川管理者)です。



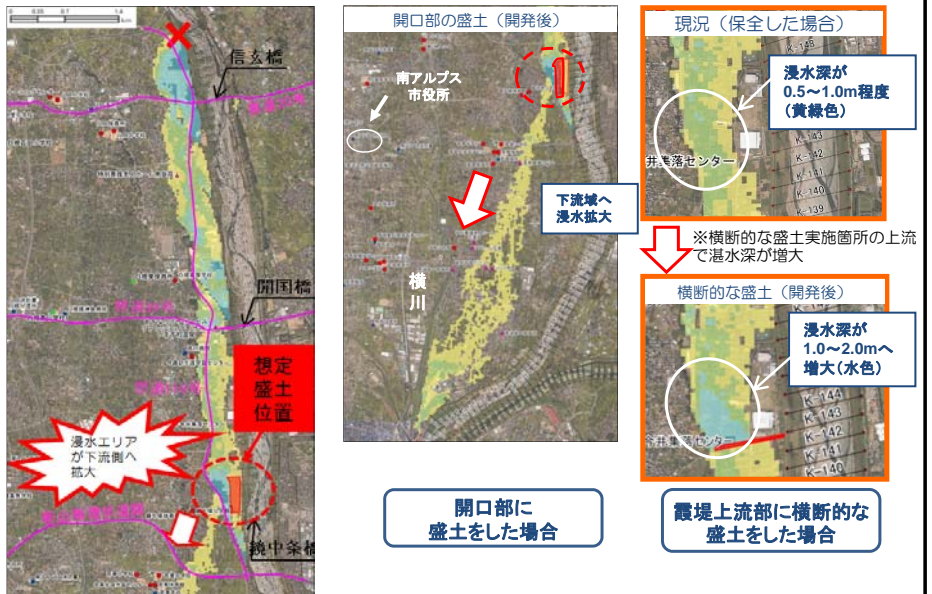
2

過年度検討成果

上今諏訪地区の霞堤



・釜無川に現存する伝統的治水施設のひとつ、霞堤(特に鏡中条霞堤)は、上流の堤防が決壊した場合でも、氾濫水を河川に戻し、氾濫を拡大させない機能を今も有しており、地域を水害から守っている。



霞堤の開口部付近やその上流部において、氾濫水の流下を妨げるような盛土は、本来霞堤が持つ氾濫戻し機能を著しく低下させ、浸水被害を悪化させる恐れがある

図: 検討対象範囲

3

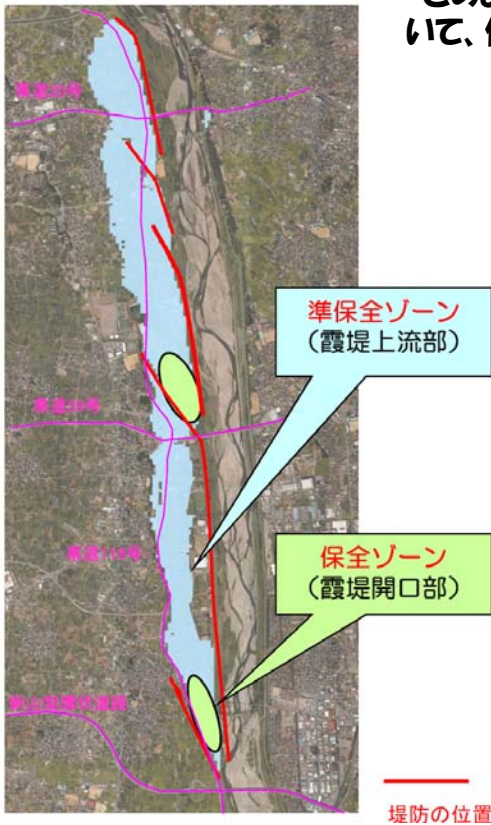
・このような霞堤の機能を保つため、霞堤の開口部や上流部の土地利用について、保全ゾーン※1と準保全ゾーン※2に区分し施策をとりまとめた。

※1 保全ゾーン：氾濫水を河川に戻す出口に相当する部分

※2 準保全ゾーン：氾濫水を速やかに開口部に導く部分

表：土地利用の誘導に関する施策

		土地利用区分	第一段階	第二段階			
保全ゾーン	官地	道路、水路など	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な開発計画の策定（マスタープラン改訂） 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者との協定（覚書等） ・農振農用地の制限による保全（間接的手法） ・開発指導要綱改定による指導 ・土地所有者との合意形成（覚書等） ・管理者との協定（覚書等） ・農振農用地の制限による保全（間接的手法） ・開発指導要綱改定による指導 			
	農地	農地			<ul style="list-style-type: none"> ・強制力のある「条例」の制定 <ul style="list-style-type: none"> ○考えられる手法 <ul style="list-style-type: none"> ・地区計画策定（都市計画法） ・風致地区の指定（都市計画法） ・特定用途制限区域の指定（都市計画法） ・緑地協定締結（都市緑地保全） ・生産緑地指定（生産緑地法） ・土地利用調整に関する条例 ・景観条例改定：景観形成重点地区の指定（現在の南アルプス市まちづくり景観条例では、当該指定地区はない） 制限内容：開発行為、土地の形状変更などの景観形成に大きな影響を与える行為 施設管理者との協定、農振農用地の制限による保全を引き続き推進していく 		
	民地	工場、宅地、ゴルフ場など				<ul style="list-style-type: none"> ・開発指導要綱改定による指導 	
官地		道路、水路など					
準保全ゾーン	農地	農地					<ul style="list-style-type: none"> ・開発指導要綱改定による指導
	民地	工場、宅地、ゴルフ場など					
		官地	道路、水路など				



図：ゾーン区分図

「南アルプス市 霞堤を活かした 防災まちづくり」に向けた検討会報告書 p10, 11」

2. 取り組みの視点の追加

■長期的取り組みの視点(過年度)

- 土地利用誘導方法の制度上の整理
- 南アルプス市 都市計画マスタープラン(改訂)に関する課題

■長期的取り組みの視点(今年度)

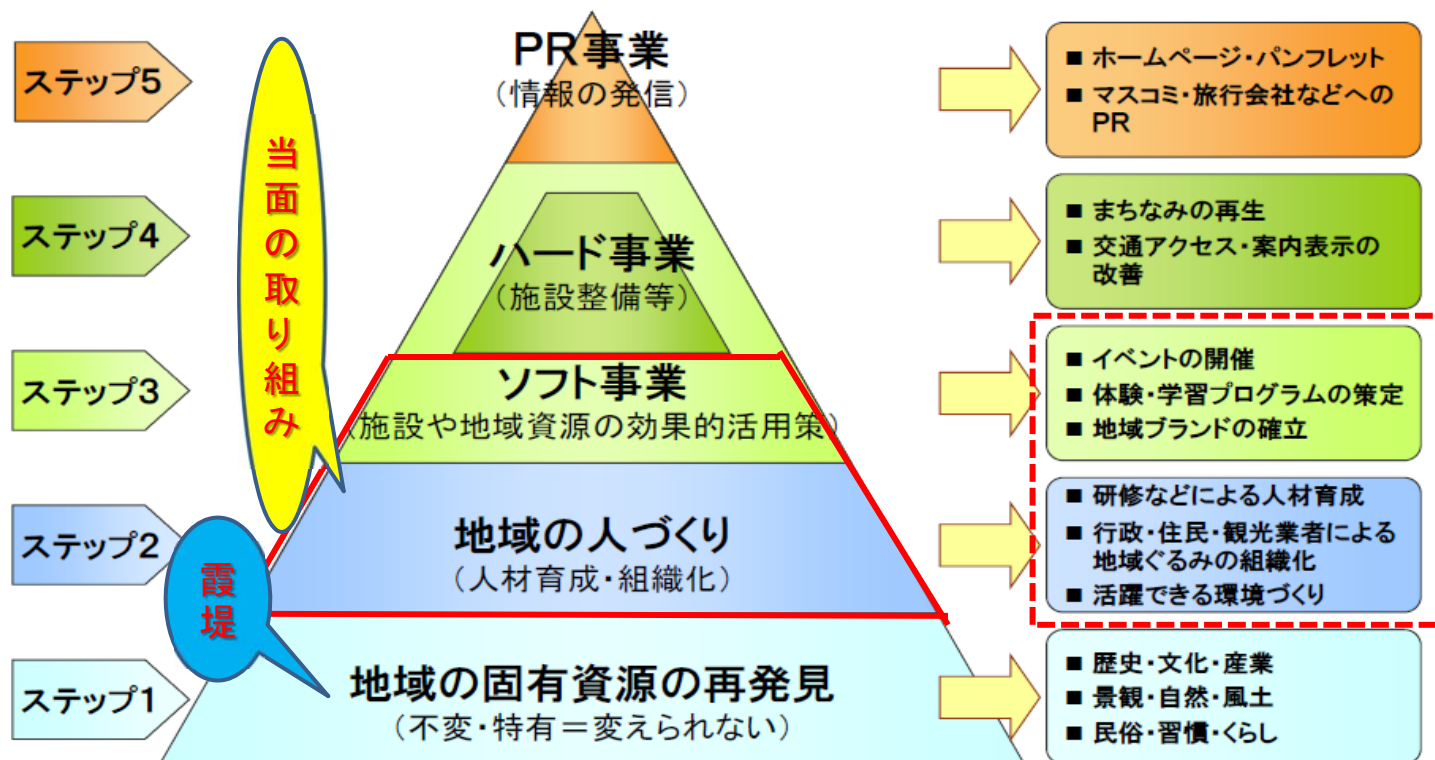
- 水防法の一部改正で河川整備計画以上の洪水に備える重要性
- 霞堤保全による既存施設のストック効果の再評価

■当面の取り組みの視点(今年度)

- 地域活性化と連携した国土強靱化の取組の視点
- 霞堤の土地利用誘導方法の「活用手段」をテーマに追加を検討
- 短期的な活用策による**長期的な取り組み策の応援が狙い**

3. 追加検討テーマとその検討方法【追加検討テーマ】

観光まちづくりにおける5つの要素



6

引用：関東の観光地域づくり支援ガイドブック<http://www.ktr.mlit.go.jp/chiiki/chiiki00000045.html>

3.1 当面の取り組みの視点(今年度)

●過年度検討では、霞堤(特に鏡中条霞堤)の氾濫戻し機能を保つため、霞堤の開口部や上流部の土地利用についての土地利用誘導の施策(霞堤の保全)を提案した

ステップ1→地域の固有資源の再発見

「南アルプス市 霞堤を活かした防災まちづくり」に向けた検討会

●平成27年度検討では、その霞堤の保全を推進する手段として、**霞堤の「保全」と「活用」を追加テーマに検討**

ステップ2→行政・住民・観光業者による地域ぐるみの組織化

ステップ3→地域ブランドの確立

ステップ3→イベント開催

に着目しての3つのテーマを追加したかわまちづくりのスキームを提案する

①「農業振興(農地の維持)」

②「歴史的治水施設による防災教育」

③「観光資源化」

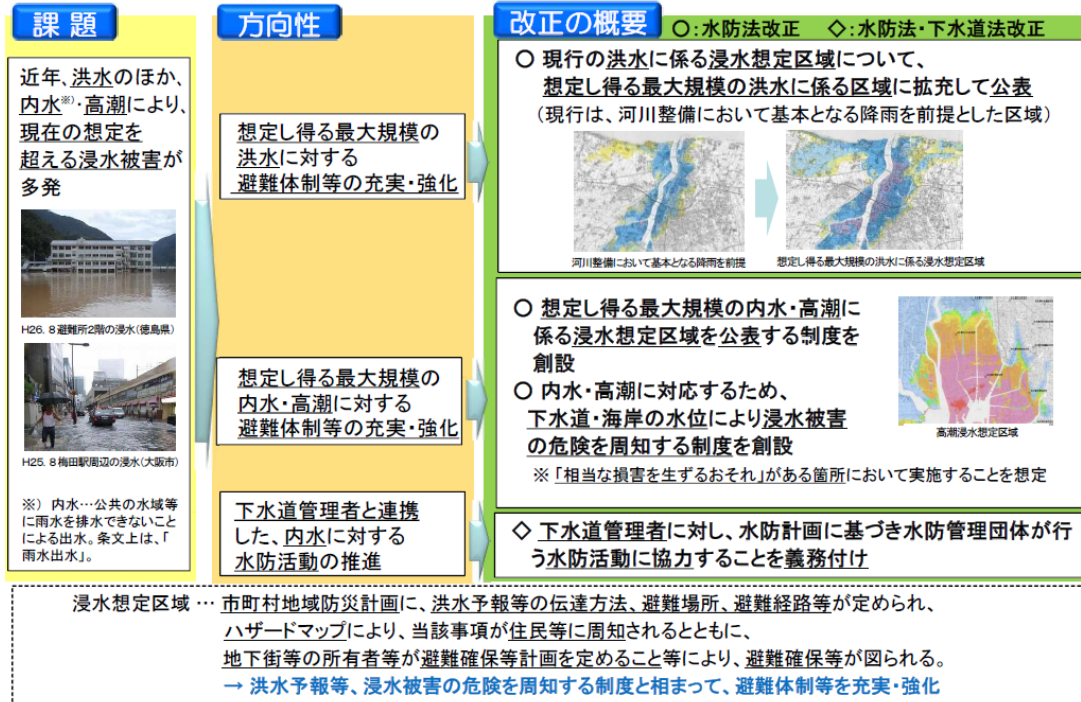
7

3.2 長期的取り組みの視点(今年度) H27水防法改正のポイント

http://www.mlit.go.jp/river/suibou/pdf/suibouhou_gaiyou.pdf

最大規模の洪水・内水・高潮への対策[ソフト対策]

<水防法の一部改正>



➡ 霞堤保全で浸水想定区域が小さくなる。

8

3.3 検討方法

富士川水系は、隠れた地域資源や人材(材)の宝庫!

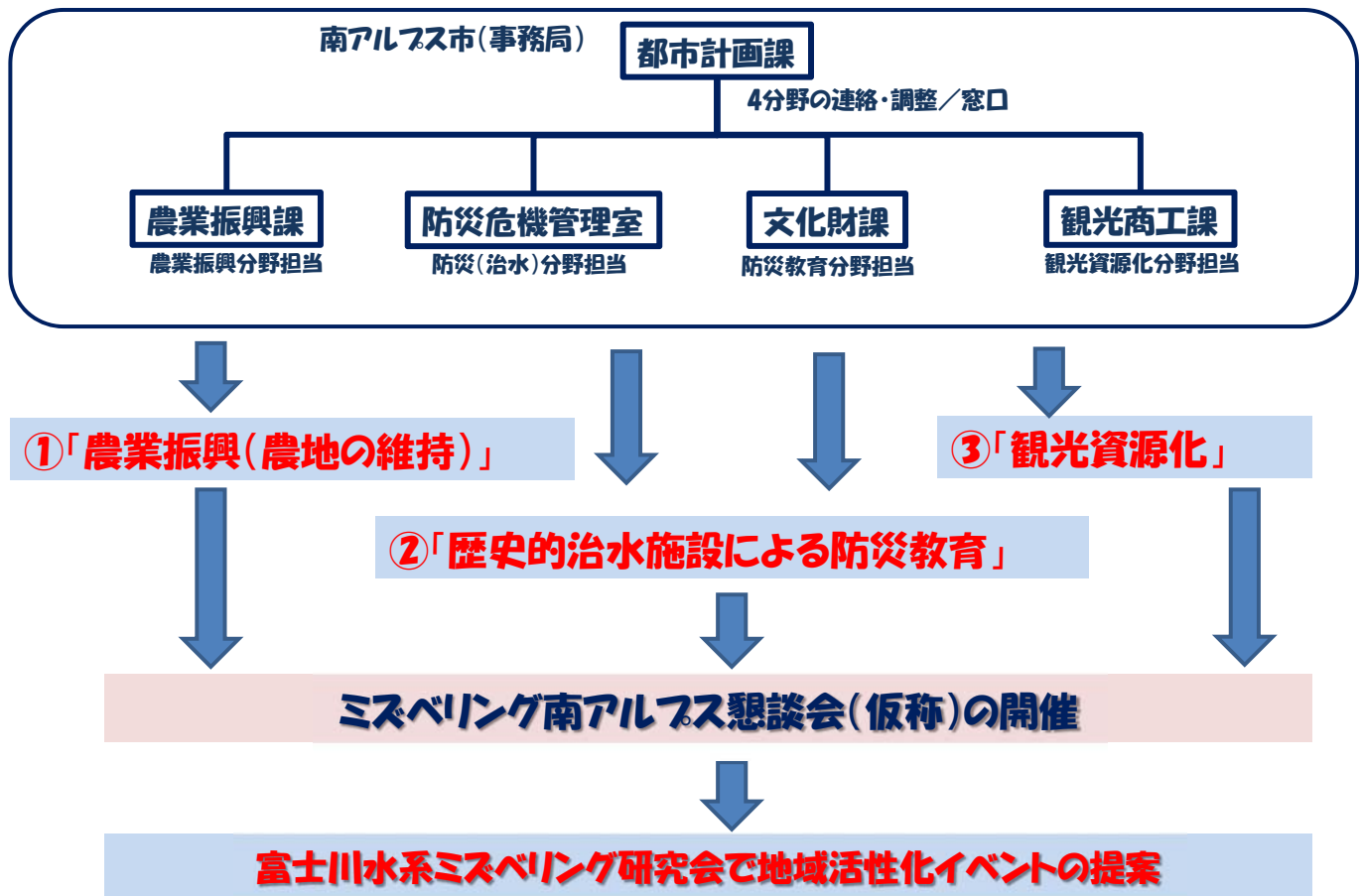
- ・良好な水辺空間(釜無川、笛吹川等)、歴史的治水施設(六科将棋頭、信玄堤等)
⇒ 観光資源化
- ・歴史・防災教育のエキスパート(教育委員会、山梨防災教育研究会)
⇒ 防災教育
- ・霞堤農地の青果(果物、野菜等)をブランド化(南アルプス市完熟農園連携) 信玄堤野菜?
⇒ 農業振興

- ①一元的に活動・連携してくれる地域の組織・人材育成が不可欠
- ②多様な媒体の広報活動が重要

富士川水系ミスベリング研究会の活用・参加を提案

9

3.3 検討方法



10

富士川水系ミスベリング研究会の概要と提案イメージ

富士川水系ミスベリング研究会概要

1. 研究会の目的

富士川水系の水辺とまちの未来を創造していくための取り組みを推進していくためミスベリングに関する情報を関係者で共有し、産官学との連携のあり方と人材活用方策について調査・研究を行う。

2. 研究会の目標

- 研究会は、次項を達成することを基本目標とする。
- ①水辺を楽しむ人を増す・育てる
- ②水辺で街を変える人を増す・育てる
- ③水辺で新しいビジネスを作る人を増す・育てる

3. 研究会の構成

ミスベリングに関心をもって取り組む産官学の機関・団体等によって構成。大学コンソーシアムやまなし※と甲府河川国道事務所で共同設置(平成27年3月3日設立)。



※大学コンソーシアムやまなし

大学間相互の連携による多様な交流機会の提供、教育・研究の相互補完・向上と成果の還元、全国への情報発信に関する事業を行い、大学及び短期大学の特色ある発展を支援するとともに、地域の活力向上と地域経済の活性化に寄与することを目的として設立。

JTBグループの社会環境活動(CSR)

<http://www.itbcorp.jp/ip/csr/clean/>

JTBグループは、「The JTB Way」の「私たちが大切にすること」にある(5)社会への貢献、(6)地球上の資源への配慮について、下記の社会環境活動を行っています。



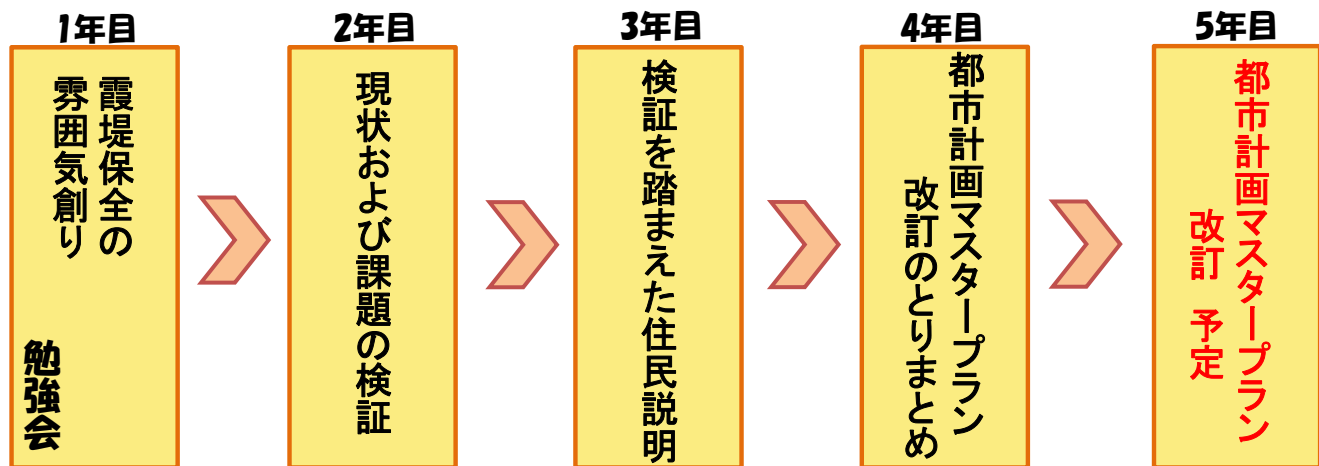
JTB地球いきいきプロジェクトは、お客様や地域の皆様とJTBグループが一になり、元気な未来を創造していく活動です。観光地をめぐるながら清掃活動したり、地域の文化を学びながら種樹活動をしたり。この活動内容が評価され、2014年3月にはUNDB-J(国連生物多様性の10年日本委員会)が推奨する連携事業に認定されました。環境美化や人と人との交流を通じて、そこに関わる全ての方々とともに「地域を元気に、人を笑顔に。」していきたいと考えています。

- ・「地球いきいきプロジェクト」を中心としたミスベリングコラボによるツアーを企画
- ・完熟農園スタート→霞堤の歴史・文化講演→霞堤の清掃美化活動→ミスベリング研究会の推進
- ・ツアーのアイデア向上に「ミスベリング南アルプス懇談会」を開催・活用

11

5. 「霞堤の保全」の取り組みスケジュール(案)

■南アルフス市 都市計画マスタープラン(改訂)に向けて



都市計画マスタープラン（改訂）に「霞堤保全」を含める雰囲気づくりが重要

■南アルフス市 都市計画マスタープラン(改訂)に向けての「霞堤の保全」に対する課題

- 住民・企業等への「霞堤の保全」価値の共有